

永祿四年正月

獻立

一、式三獻 十郎殿御馬の使、對馬殿御太刀の使、直御馬御太刀栗毛

一、初獻 三宅影次郎殿御使、御太刀一腰供房

一、三獻 長新次郎殿被參候、盃・香合

一、五獻 同源次郎殿御使、三河守殿あいそへ、御具

足三物・御太刀一腰金ふくりん

一、七獻 神保周防守殿御使、御腰物則益ニ直

一、九獻 御大三之助殿御使、御繪一ふく盆筆馬遠

一、十一獻 飯河若狹守殿御使、御打刀景光

一、十三獻 平左衛門尉六郎殿御使、御長刀法成寺

一、十五獻 御大三之助殿御使、御鞍貞宗作

一、廿一獻

以上

同能与

熊木 せんざいふ若衆

せんばそ 此笛彦兵衛

弓八幡 熊木大夫 大鞍坊丸 小鞍藤七

實盛 平内大夫 同大鞍大津田進助殿 太こ彌九郎 笛瀧波

松風村雨 同 小藤七 太鼓高木 笛瀧波

矢立加茂 日吉大夫 大鞍坊丸 小鞍藤七 笛瀧波

野々宮 平内 同大鞍深尾殿 小鞍藤七

八嶋 日吉大夫 大鞍大津殿 小鞍藤七

照君 平内 同大鞍三藏 同小鞍藤七

田村 日吉三郎 同大鞍深尾殿 同小鞍藤七

浮舟 日吉大夫 同大鞍大津殿

鞍馬 熊木 同小鞍藤七

東岸居士 平内 同大鞍三藏

玉かつら 同 同小鞍彌一

老松出歸 熊木 大鞍同

以上 小鞍同

同狂言 釘原 ひよんの介 靱仮源三

御家之子

一番 宇留地孫四郎

二番 阿岸新次郎

三番 山田十郎兵衛

此木 此兩人は座敷論を以不罷出候。

上野

老等

一番 關 左近助

二番 中村小二郎

三番 加藤紀三郎

四番 田屋熊千代

五番 關 與三

(本文書中献立の條には、式三獻より廿一獻に至るまでの料理組を記せるも今之を略寫せり。)

二月四日。石川郡宮永の百姓、白山宮莊嚴講に、その免田の貢納を約す。

【白山比咩神社文書】 石川郡 一四一五

白山莊嚴講免、宮永竹内衛門分、在坪者從村北ニ御座候。御年貢一段壹石四斗處也。但此内二斗五升之處曳物可給候。相殘而壹石壹斗五升分、圖法ニ急度相立可申候。仍爲後日二筆如件。

永祿四年 二月四日

宮永竹内 彦左衛門 在判